

かけはし

足柄上病院の病院理念

- 「あ」：安全で安心な医療を提供します。
 「し」：社会の要請を担う政策医療を展開します。
 「か」：患者中心の医療を実践します。
 「み」：魅力ある自立した病院を目指します。

初夏号（通刊 第65号）

〈 内視鏡センター 〉



内視鏡センター長
 やなぎ 柳 ばし 橋 たか 崇 史

足柄上地区でも胃がんの内視鏡検診がスタートし、内視鏡が担う役割はますます拡大しています。

内視鏡機器・内視鏡技術は非常に進歩しており、以前は手術を行わなければならなかった疾患が内視鏡で治療可能になるというケースも増えています。検診から治療まで迅速に対応していくため、内視鏡センターを立ち上げました。

当センターでは、予約は原則1週間以内とし、上部内視鏡（胃カメラ）については来院当日の検査も行っております。鎮静剤（眠れる薬）を使用した内視鏡や鼻から入れる内視鏡（経鼻内視鏡）も積極的に導入しており、“検査を受けやすい”施設を目指しております。

上下部内視鏡検査の他に食道癌・胃癌・大腸癌の内視鏡治療や胆道・膵臓領域の内視鏡検査や治療、カプセル内視鏡検査等を行っており、原則365日24時間緊急治療に対応しております。消化管出血に対する内視鏡的止血術や胆道感染症に対する逆行性膵胆管造影（ERCP）は夜間・休日であっても可能な限り施行できるよう体制を整えております。

立ち上がったばかりであり、まだまだ不十分な部分があるかもしれませんが、皆さんの健康維持に役立てるよう、これからも精進して参ります。

〈 人工関節センター 〉



人工関節センター長
 くさ 草 やま 山 よし 喜 ひろ 洋

現在、日本では変形性膝関節症の有病率は、70歳を超えると50%以上、推定患者数は2,500万人

という報告があります。要介護に至る原因の約10%が骨、関節疾患ともいわれ、そのような社会情勢を受け、関節治療を専門とする人工関節センターを開設させていただきました。

人工関節センターという名称ですが、人工関節の手術のみを行うのではなく、膝痛を中心とした関節痛に対する精密検査からリハビリ、投薬、注射、外科的治療まで、患者さんのニーズに応じて幅広く行っております。変形性関節症治療のゴールは、痛みをとるということは共通ですが、スポーツがしたい、旅行に行きたい、畑仕事がしたい等、一人一人異なります。当センターでの手術治療は、一人一人のゴール、変形の程度に応じて、関節温存が可能な骨切り術、低侵襲な人工膝関節単置換術、高度な変形も対応できる人工膝関節全置換術と各種術式を使い分けて最適な治療を選択することが可能です。また、手術中1mm、1°の調整ができるナビゲーションシステムを導入しており、精度の高い手術が行えるようになっています。

当センターでは手術前全身検査も細かく行っており、年齢で制限することはないので「年だからしょうがない」とあきらめる必要はありません。膝痛でお困りの際は高水準かつ先進的な膝関節治療が提供できる当センターへお気軽にご相談ください。

着任のご挨拶



副事務局長 田中 一郎

この4月に副事務局長に着任しました、田中と申します。

病院勤務は初めてで、皆様の健康と命を守る組織を内側から見る貴重な経験をさせていただいています。折しも、当院が新型コロナウイルス感染症対策における重点医療機関となった中での着任でしたが、通常診療を制限せざる得ない状況にあっても、多くの方々から暖かいご支援をいただくのを目にし、当院が、地域の皆様の信頼と応援に支えられて運営されていることを、実感したところです。

今後とも、足柄上病院が、地域の中核的医療機関として皆様の期待に応えられるよう、裏方から尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



副看護局長 すぎやま けいこ

こんにちは。この度、がんセンターから4月1日付で副看護局長として就任いたしました杉山恵子と申します。6年前に足柄上病院の看護科長として勤務させて頂き、皆様には大変お世話になりました。様々な患者さん・ご家族、スタッフの皆様との出会いが、私にとって財産となっています。

今後は、副看護局長として、足柄上病院の看護局スタッフひとり一人が持っている力を発揮し、多職種が協力・連携して患者ケアを提供できるチームづくりと、組織力を高めながら、患者さん・ご家族、地域の方々の期待に応えられるよう、微力ながら努めていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



副看護局長 いとう まさこ

令和2年4月より看護局で副看護局長として勤務することになりました伊藤雅子と申します。足柄上病院での勤務は4年目を迎えました。外科系病棟と救急外来の看護科長として過ごした3年間の経験を活かし、副看護局長という立場で病院を大きな視野でとらえ、看護スタッフの支援や他部門との調整に尽力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



医事課長
わたなべ たけし
渡邊 健史



5 A病棟科長
まつ おりか
松 尾 里香



5 B病棟科長
あん どう かおる
安 藤 馨



手術室科長
さい とう 裕子
齋 藤 裕子



放射線技術科長
い で しん すけ
井 手 紳介

よろしく
お願い致します。

通常診療再開について



病院長 まき た ひろ ゆき
牧 田 浩 行

横浜港に着岸したクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号内で確認された新型コロナウイルス感染患者が、初めて当院に搬送されてきたのは、令和2年2月5日のことでした。この日から、当院には、同船より次々と新たな患者が送られてきましたが、それと並行するように、全国的にもじわじわと感染拡大が進行してまいりました。

同年4月1日、当院は、新型コロナウイルス感染症拡大による医療崩壊を防ぐ「神奈川モデル」において、中等症患者を重点的に受け入れる「重点医療機関」の指定を受けました。これに伴い、当院では、一般患者の安全性を確保するために、救急患者の受入れや、新患外来、新たな入院の停止など、様々な対応を図ってまいりました。当初は、酸素投与等の治療が必要な中等症患者が神奈川県内だけで500～2,500人になると推計されていましたが、幸いそこまでの感染拡大には至らず第1波は落ち着いたようです。当院でも、6月中旬より、救急医療の再開をはじめ、通常診療に戻ることができました。この間、地域の皆様や近隣医療機関の皆様には多大なご不便やご迷惑をかけてまいりました事をこの場をもってお詫び申し上げます。

昨今、感染拡大は落ち着いたとはいえ、新型コロナウイルスが世の中から死滅したわけではなく、新たに“with コロナ”の時代が始まったと言えます。厄介なことに新型コロナウイルスは陽性を確実に判断することは困難で、いつどこに潜んでいるか分からない中で、これまでとは異なった“with コロナ”の医療体制の構築が、全ての医療機関で求められています。

当院でも、夏には熱中症、秋冬にはインフルエンザ、ほかにも様々な発熱を伴う疾患の患者さんが来院しますが、様々なタイプの発熱患者さんに対して、常に新型コロナウイルスを念頭に入れて対応せざるを得なくなっているほか、他の患者さんや医療スタッフへの感染することのないように、十分な対策が必要です。このような中で、私たちは多くの新型コロナウイルス患者さんの治療を行ってきたこれまでのノウハウを生かし、“with コロナ”の時代に立ち向かっていきたいと考えています。

現在、病院入り口で来院者全員の体温測定を実施しています。熱のある患者さんに対して、完全な防護ガウンやN95マスクで診察を行い、入院が必要な患者さんは発熱原因がはっきりするまでは個室で管理し、万が一、新型コロナウイルス感染症が原因であっても迅速かつ安全に対応できる体制をとっています。救急外来も一部改装し、他の救急患者さんが熱のある患者さんと接触することがないように診察スペースの区分けも実施済みです。

足柄上病院では新型コロナウイルス感染症の第2波に備えた診療体制を維持しながら、従来の地域のための医療を安全に提供し、これからも安心して受診していただけるように努力を続けていく所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。

「当院での新たな取り組みについて」

当院はこれまで新型コロナウイルス感染症重点医療機関として通常診療を大幅に縮小しておりましたが、各方面からのご尽力を頂き、このたび通常診療を全面再開することができました。

皆様もご存知のとおり、これからは何を行う場合においても、目に見えないウイルスの感染伝播を防ぐ対策を行う必要があります。我々はこれまで通常診療再開に向けて、新型コロナウイルス感染症患者さんの診療を行いながら、院内感染対策を万全にした上で患者さんを受け入れられるよう準備を進めてまいりました。当院で現在行われている対策と新たに取り組む対策について一端をご紹介します。

＜救急外来の陰圧ブース、救急病棟の陰圧個室の設置＞

新型コロナウイルスは、特定の医療処置や症状に伴ってエアロゾル感染（ウイルスが空気中を浮遊して遠くにいる人に感染すること）を起こす可能性が指摘されています。当院ではエアロゾル感染を防ぐため、救急外来と救急病棟に陰圧のスペース（空気をフィルターに通して外に出す換気装置と隔壁を設置し、空気を清浄化するとともにエアロゾルが外に出ないようにする仕組み）をそれぞれ新たに設置しました（写真①参照）。新型コロナウイルス感染症が疑われる患者さんについては、陰圧スペースで診療することにより院内感染のリスクを最低限に抑えます。



救急病棟の陰圧個室

（ダクトを通じて清浄化した空気を外に流します）



写真① 救急外来の陰圧ブース

＜定期的な清拭消毒＞

新型コロナウイルスの感染経路には接触感染もあります。同ウイルスは環境表面で一定時間生き続けることが分かっており、ウイルスが付着した場所を触ったあとで口元や目元に手を触れることでウイルスが体内に入ります。これを防ぐためには手指衛生を頻繁に行うとともに、環境表面を消毒することが重要です。当院では指が高頻度で触れる部位（ドアノブ、エレベーターのボタン、パソコンのキーボード、ソファ、ベッド柵、荷物置場など）に対して、定期的な清拭消毒を行っています。これを全職員で時間を決めて行う「清拭タイム」の導入も現在検討中です。

<スタッフ教育>

環境表面を定期的に清拭すると同時に、そもそも一般環境にウイルスが付着しないように、診察環境の汚染度のレベル分け（ゾーニング）と、診療時の細かな手順の設定をしています。

一例を挙げると、感染症を疑う患者さんを診察した後、職員が診察室を出てフェイスシールドとマスクを脱ぐ手順を統一し、スタッフへ徹底指導しています（写真②参照）。またマスクを外す食事中は特に注意する必要があるため、当院職員は食事を摂る際に、なるべく少人数で、向かい合わないよう、距離を保って座るよう指導されております。



写真② フェイスシールドとマスクを脱ぐ手順

<混雑の回避>

新型コロナウイルスは飛沫感染（くしゃみや咳をした際に飛沫が周囲に飛び散り、近くにいた人の体内にウイルスを含む飛沫が入り感染すること）も起こします。これに対しては院内全員のマスク着用、必要に応じたフェイスシールド装着に加え、飛沫が飛散する範囲になるべく近づかないようにする（ソーシャルディスタンスをとる）ために密集状態緩和への取り組みを行います。具体的には待合室のソファを減らして対応すると同時に、ソファに座れない患者さんを減らすため、外来患者さんが一定の時間に集中しないように分散させながら予約を取る工夫をしております。また、御来院の皆様全員にマスク着用をお願いしております。皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご協力いただけますようお願いいたします。

<さいごに>

感染対策を徹底するためには多くの防護具が必要となります。皆様方からは多数の防護具を寄付していただき、大変助かりました。心より御礼申し上げます。

病院には御高齢者、癌患者さんなど免疫力が低下している方が来院されるため、「病院に来ることで感染症にかかってしまうのではないかと皆様不安を感じていらっしゃると思います。当院では院内感染を防ぐために様々な対策をすることにより、安心してご来院・ご入院いただけるよう、これからも最善を尽くしてまいります。



地域の皆様、温かいご支援ありがとうございます。

「大学生の息子が、アルバイトで稼いだお金で、マスクを買ったんですが、寄附してもいいですか？」…そんなお電話をいただいたのは、不織布ガウン、マスク、ニトリル手袋など、医療資材が全国的に枯渇していた5月上旬のことでした。当院においても、これらの資材は、慢性的な不足状態で、マスクの使用制限をしたり、ゴミ袋でガウンを作ったりと、綱渡りの日々が続いていました。

そんな時に、手を差し伸べてくれたのは、近隣の医療機関や企業、そして個人の方々でした。冒頭の青年は、「少しでも病院の力になればと思って…」という温かい言葉とともに、1,500枚ものマスクが詰まった段ボールを届けてくれました。当院には、こんな風に、医療資材の入った段ボールが毎日のように、多い時には日に何度も届けられました。

資材だけではなく。次々と寄せられる励ましのお手紙や寄附金。病院前に掲げられた「ありがとう、がんばれ！足柄上病院」の横断幕。「あしかみ全力応援プロジェクト」の皆様からは、毎週のように様々な支援物資を届けてもらいました。夜間、渡り廊下から見える松田山ハーブ館のライトアップは、私たちを、いつも奮い立たせてくれました。

これらのメッセージは、最前線で患者の治療に当たる医療スタッフのみならず、病院で働く全ての職員にとって、何よりも心強い励まし、そして、明日への活力となりました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

【ご寄附いただいた皆様】

医療資材をご寄附いただきました方の中から、ご承諾をいただいた範囲内で、ご芳名を掲載させていただきます。このほかにも沢山の方から医療資材、寄附金をいただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

- （一社）あしがら青年会議所 様
- 足立どうぶつ病院 様
- 安藤眼科医院 様
- 株式会社 イヨダ 様
- 有限会社 エスコート 様
- 小田急 山のホテル 様
- 小田原北ロータリークラブ 様
- おだわら脳神経外科クリニック 様
- 公益社団法人 小田原薬剤師会 様
- 小田原レディスクリニック 様
- かいせい動物病院 様
- 株式会社 皆藤製作所 様
- 公益社団法人 神奈川県看護協会 様
- 神奈川17区地方議員連盟 様
- （医）唐木整形外科 様
- 共同冷蔵株式会社 様
- くまざわ皮フ科クリニック 様
- 佐藤病院 様
- 自由民主党 開成町連合支部 様
- 善ファミリークリニック 様
- 第一生命保険株式会社 平塚支社 様
- 南開工業株式会社 様

- 日興テクノス株式会社 様
- 日本TRIZ協会 様
- フェデラル・モーグルジャパン株式会社 様
- 株式会社 古川 様
- 堀内医院 様
- マセラシオン ア ミュジーク同 様
- 松田町自治会長連絡協議会 様
- 社会福祉法人 松田町社会福祉協議会 様
- マナクリニック 様
- 南足柄市議会 様
- 南足柄市商工会（青年部） 様
- 南足柄市職員有志 様
- 社会福祉法人進和会 南秦野保育園 様
- ミユキ動物病院 様
- 安間医院 様
- 社会福祉法人 湯河原福祉会 様
- 医療法人 仁知会 吉田整形外科 様
- 渡辺整形外科 様
- わたなべ動物病院 様



足柄上病院の ドクター紹介

令和2年度
新任の医師

- ① 診療科
- ② 一言メッセージ
- * 専門分野・得意分野



かね むら え み こ
兼 村 恵美子

- ① 総合診療科
- ② 宜しく願い致します。
- * 消化器内科



そ だに ゆう き
曽 谷 祐 貴

- ① 消化器内科
- ② 皆さんのお役に立てるよう精一杯頑張ります!!
病院にいらした時はお気軽にお声かけ下さい。



こ ばやし ひろ のり
小 林 弘 典

- ① 循環器内科
- ② 頑張ります。



やま だ ゆう
山 田 優

- ① 循環器内科
- ② 宜しく願い致します。



うち やま まもる
内 山 護

- ① 外科 医長
- ② 患者さん一人一人に合った治療を提供できるよう努めます。
- * 一般外科・消化器外科



すぎ やま あつ ひこ
杉 山 敦 彦

- ① 外科
- ② ご指導宜しく願い致します。



すず き きよ たか
鈴 木 清 貴

- ① 外科
- ② 宜しく願い致します!!



くさ やま よし ひろ
草 山 喜 洋

- ① 整形外科 医長
- ② 地域医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。
- * 膝関節外科



なか むら れい な
中 村 玲 菜

- ① 整形外科
- ② 宜しく願い致します。



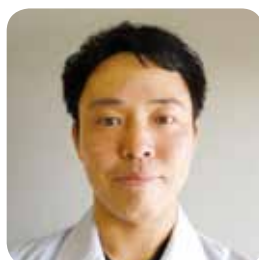
かさ はら た いち
笠 原 太 一

- ① 整形外科
- ② 宜しく願い致します。



ふか ざわ たけ し
深 澤 武 史

- ① 泌尿器科
- ② 地域医療に貢献できるように頑張ります。
- ☆ 昨年16キロのダイエットに成功しました。痩せたい方はご相談ください。



の むら よう た
野 村 洋 太

- ① 泌尿器科
- ② 精一杯頑張ります。

◇令和2年6月18日現在の外来診療体制です。

休

診

【注1】 脳神経内科の新患の診察は、火10:30以降、水10:00以降になります。(受付は11:00までになります)

【注2】 精神科の受診は、再来予約の方及び直近1年間に精神科を受診したことのある方のみ受診できます。

【注3】 心臓血管外科の受診は、予約制ではありません。

【注4】 脳神経内科高橋医師の診察は毎月第2週および最終週が休診となります。

【注5】 もの忘れ外来の新患の診察は紹介状をお持ちいただいた方のみ受診できます。

【注6】 脳神経外科新患外来の受診時にご予約いただくか、電話での受付(新患も可)をしております。電話予約は、受診日の前週の木曜日(休日の場合は翌日)から、受診日の前日の火曜日(各日8時30分~14時)までの受付とさせていただきます。※TEL 0465-83-0351
1日最大5人までの受診となるため、枠が埋まり次第受付終了とさせていただきます。キャンセル待ちは受け付けておりません。

【注7】 正常圧水頭症外来は受診中の病院から地域連携室を通して予約してください。第3週が休日の場合は第1週に診察します。

【注8】 脳神経外科山中医師の診察は毎月第2・4週となります。その他の週は脳神経外科医師が交代で診察します。

【注9】 早乙女医師は「性の相談外来」も行います。

○臨時の休診や担当変更もあるため、あわせて休診掲示もご覧ください。

発行：神奈川県立足柄上病院 〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領866-1
(TEL) 0465-83-0351 (FAX) 0465-82-5377 <http://ashigarakami.kanagawa-pho.jp/>
編集：神奈川県立足柄上病院経営企画課 (内線) 5520